

## 「米山奨学事業について」



## 米山月間によせて

地区米山奨学委員会  
茨木RC

委員長 笠原 隆之助

米山奨学事業の実際の行動は1953年に「米山基金」の募金を開始しました。ご承知の通り、米山梅吉氏の陰徳を称えて東京RCが日本に留学している、主にアジアの優秀な学生を支援したのが米山奨学会の始まりです。このロータリアンの尊い寄付金が積み重なって、各地区で奨学生を支援する事が可能になっています。

米山梅吉氏がアメリカに留学して苦勞の末に三井信託銀行の社長になり、日本ではじめてのRCである東京RCを設立しました。米山氏は生前多くの慈善事業を行いました。多くは未来のある若い人達の為に為されたように思います。特に米山氏が二人のご子息を若くして亡くしていることも遠因があるかもしれません。私たちロータリアンは多くの奉仕事業を行っておりますが米山奨学会は日本のRCだけのシステムであり、30～50年先に花開く息の長い事業です。多くの留学生が学業成って母国に帰り、その国の貴重な人材になっている例は数多く見受けられます。それも日本の国状が安定しロータリアンが奉仕事業に熱い想いを寄せて下さっているからに他なりません。ロータリアンの1000円・2000円の寄付金が多額の感動の原点です。是非とも、この日本

独自の優れた米山奨学会にあなたの力を貸して下さい。

米山奨学生を終えますと米山学友と呼ばれますが、学友の中には海外から毎月1万円、又、弁護士になり裁判での報酬の一部として数十万円を、昔お世話になったからと送金してくる人がいます。この人達のお世話は恐らく20～30年前の先輩ロータリアンのご努力の賜物だと思われまます。私たち現役ロータリアンも大いに頑張っって多くの奨学生を援助しようではありませんか。

人間は何故奉仕活動を行うのでしょうか？例えば阪神大震災の時に多くのボランティアが全国から駆けつけて下さいました。このような尊い奉仕は人間の自然な感情に基づいていると考えられます。私たちロータリアンはこの非常に貴重な奉仕の精神を実際の行動に移していますが、奉仕することを通して私たち自身が人間的に成熟していく事が重要です。

「情けは人の為ならず」という言葉がありますが、私たちは他人の為でなく自分自身が成長する為に奉仕をしているのだと云うことを忘れてはいけないと思います。